主役は団員一人ひとり！　一人ひとりがジュニア吹奏楽団を育てる！

**毎回の活動のルーティーン（会場に到着してから帰るまでの流れ）**

１．会場に到着　事務局やサポーターからの連絡があれば聞こう。

２．受付を済ませ、楽器を受け取り、所定の場所に置く。

３．視聴覚室で机を出し、椅子を整理して合奏隊形をみんなでつくる。

　※打楽器は、ＳＤ練習台、ＢＤ、ＳＤ、鍵盤打楽器を準備する。

４．譜面台、楽譜、筆記用具を自分の位置に用意する。

５．所定の場所で楽器を準備する。（リード楽器は必ずキャップを付ける）

　※初心者は、会議室の所定の場所で準備し、練習する。

６．開始時、終了時にはあいさつし、最初は基礎合奏練習を行う。

　※活動中は指示されたら返事をしよう！

７．練習にあたって

　(1) １時間に１０分は休憩時間をとります。

　(2) 練習では、目標や目的をはっきりします。いつもそれを意識して音を出そう。

　(3) 必要なことは、楽譜などにメモすること。

８．練習終了後の流れ（事務局から連絡があれば聞こう！）

　(1) 楽器を掃除（水分を取る、指紋や汚れを取る）し、ケースにしまう。

　(2) 楽譜、譜面台などを片付ける。

　(3) 視聴覚室、会議室の机、いすを整頓する。

　(4) 個人カード、反省用紙を書く。個人カードは自分のファイル、反省用紙は提出します

　(5) 団長さんのお話

　(6) 諸連絡と終わりのあいさつ

　(7) 解散

**練習でのお願い**

　◯　今、何の練習かをしっかり意識しよう。

　◯　返事は自分の意思表示！　自信をもって適正な大きさで返事をしてムダをなくそう！

　◯　集中しよう　～説明中は話をやめよう～

　◯　説明が分からなかったら、質問しよう！（分からないのは自分だけじゃないよ！）

　◯　忘れないために、どんどんメモをとろう。

　◯　うまく音が出なかったり、失敗したりしたってだいじょうぶ！

その積み重ねができるようになるコツだよ！

**※練習や吹き方、たたき方には、いろいろな考え方があります。これから練習するの　は一例です。上達してきたら、自分に合った練習方法や吹き方を追究していこう！**

あせらず、一つひとつを身につけていこう！

　楽器は、練習すればうまくなるというものではありません。間違ったことを身につけてしまうと、少しは吹けるようになっても、さらにできるようにはなりません。それを、「変な癖（くせ）が付いた」と言います。一つひとつ確実に身につけ、何回も確認し練習していくことが、最も速く上達する最大の近道です。それによって、たくさんの曲を演奏できるようになるでしょう。

初心者コースと経験者コースに分かれて練習します

(1) 初心者…必要に応じてテレビを使い、楽器のことを覚えます。（基礎奏法講座など）

　①　楽器の出し方、組み立て方、置き方、扱い方、しまい方、毎回の掃除の仕方

　②　アンブシュアをしっかり意識して、音の出し方を覚える。

　　・リード楽器…マウスピースとバレル・ネックで

　　・フルート…頭部管で

　　・金管…マウスピースにホースを付けて　→　マウスピースのみで

　　・打楽器…ＳＤのスティックを使って、持ち方、動かし方を覚える。（練習台を使用）

　③　正しい音程、リズムで吹けるようにする（管楽器は２拍、４拍延ばせるように）

　　・リード楽器…マウスピースとバレル・ネックで指定の音程

　　・フルート…頭部管で指定の音程

　　・金管…マウスピースのみでいろいろな高さの音を（なるべくなめらかに）

　　・打楽器…練習台とメトロノームをい、基礎練習で左右のバランスを覚える。

④　楽器を付けて、その楽器で最も出しやすい音から覚える。

打楽器は、いろいろな楽器の扱いを覚える。

　⑤　Ｂ-Dur（ホルン、テナーサックスはＦ-Dur）が１オクターブ吹けるようになったら先輩の合奏に加わる。（それまでは、初心者として会議室で練習する。サポーターの指導）

　⑥　楽曲練習になり、楽譜の５０％以上吹けない場合は、会議室にて個人練習する。

(2) 経験者…・毎回必ず所定の時間、合奏で基礎練習を行います。

　①　基礎練習では、次のものから状況に合わせて使います。

　　・配付されたプリント（特に呼吸練習は毎回）

　　・デイリートレーニング（最初は基礎編、上達したら正規のもの　各Ａ４　１枚）

　　・ネム・バンドメソード（印刷物）

　　・スーパー・サウンド・テクニック（冊子）

　　・アイデアズ・フォー・ウォームアップ（冊子、個人練習時に活用）

　②　打楽器は、練習台を使い基礎合奏に参加します。（代表者がSD、BD、シンバル使用）

　③　初回から数回は基礎合奏を中心に行います。その後、楽曲練習を増やしていきます。

　　・呼吸練習、読譜練習も取り入れていきます。

　　・新曲を渡した時や演奏会の前には個人練習も取り入れていきます。

毎回の練習の流れ（経験者コース）

※　基本的に、毎回次のような流れで練習を行います。

※　それぞれの内容は、その時の演奏技量（レベル）によって変わっていきます。

※　１時間に１０分の休けいを取ります。

※　筆記用具、水筒を忘れずに！

１．呼吸法の練習

２．デイリートレーニング（最初は初級編→通常へ）　**※基礎練習とウォームアップ**

　・頭部管、マウスピース等でのアンブシュアチェック

　・ロングトーン

　・タンギング

　・音階（スケール）

　・ユニゾン

　・ハーモニー

　・分散和音（アルペジオ　木管楽器）

　・リップスラー（金管楽器）

　※最初は一つひとつ時間をかけて行い、理解できたら連続で通して（約４分）行います。

　※レベルによって、スーパー・サウンド・トレーニングを使います。

３．ロングトーン　コンテスト

　※前回より長く延ばせるかな？　→　個人カードに記入

４．楽曲練習

　・状況によって、合奏、個人練習を行います。

　・個人練習の時、「アイデアズ・フォー・ウォームアップ」を使うこともあります。

初心者コースで覚えること

※　必要に応じてテレビを使い、楽器のことを覚えます。（基礎奏法講座など）

※　サポーターやＯＢ、先輩に教えてもらいます。

①　楽器の出し方、組み立て方、置き方、扱い方、しまい方、毎回の掃除の仕方

②　アンブシュアをしっかり意識して、音の出し方を覚える。

　・リード楽器…マウスピースとバレル・ネックで

　・フルート…頭部管で

　・金管…マウスピースにホースを付けて　→　マウスピースのみで

　・打楽器…ＳＤのスティックを使って、持ち方、動かし方を覚える。（練習台を使用）

③　正しい音程、リズムで吹けるようにする（管楽器は２拍→４拍延ばせるように）

　・リード楽器…マウスピースとバレル・ネックで指定の音程

　・フルート…頭部管で指定の音程

　・金管…マウスピースのみでいろいろな高さの音を（なるべくなめらかに）

　・打楽器…練習台とメトロノームをい、スティックの基礎練習で左右のバランスを覚える。

④　楽器を付けて、その楽器で最も出しやすい音から覚えていく。

　打楽器は、いろいろな楽器の扱いを覚える。

⑤　Ｂ-Dur（ホルン、テナーサックスはＦ-Dur）が１オクターブ吹けるようになったら、初心者コース卒業です。

⑥　楽曲練習になり、楽譜の５０％以上吹けない場合は、会議室にて個人練習します。